

多摩・島しょ地域におけるスポーツを活用した地域活性化に関する調査研究結果発表シンポジウムの実施報告

【平成29年7月6日 調布市文化会館たづくり】

当調査会では毎年度、市町村の自治に関する調査研究を行っています。今回のシンポジウムは、昨年度の調査研究の結果を踏まえ、「『多摩・島しょ地域』×『スポーツ』でまちを元気に～スポーツが持つ力とスポーツコミッションの可能性～」と題して開催しました。当日は、133名の住民の皆様や関係団体の皆様、自治体職員にご参加いただきました。本稿では、当日の様相について報告します。

1. 基調講演

始めに、(一財)日本スポーツコミッション理事長の木田悟氏による基調講演が行われました。講演ではまず、スポーツと体育の違いについて解説がありました。その上でスポーツを活用したまちづくりを行うことにより、経済的効果だけでなく、地域情報の発信、地域のスポーツ振興、地域アイデンティティの醸成などの社会的効果が拡大していくこと、さらにそうした社会的効果を見据えて取り組んでいくことの重要性が述べられました。

そして、スポーツコミッションの定義を、地域の課題を解決するためにスポーツというキーワードを使って取り組んでいくものであると解説しています。

このように、スポーツの役割、スポーツコミッションの位置づけなどについての説明により、当シンポジウム内容にかかわる基本的な考え方を示していただきました。



▲基調講演の様子

2. 調査研究結果発表

続いて、平成28年度に実施した調査研究結果について、当調査会の斎藤研究員が講演を行いました。

ここではまず、多摩・島しょ地域におけるスポーツコミッションの認知度は低いことが報告されました。しかし一定の需要は見られることから、組織の設立を目指してその可能性を考えることの意義が述べられました。設立へ向けては、

- ①地域の活性化にスポーツを活用すること、
 - ②大規模なスポーツイベントを契機と捉えること、
 - ③地域の特性に合った組織づくりを行うこと、
 - ④自立する組織づくりを行うこと、
- の4点の方向性が示されました。

このように、多摩・島しょ地域自治体におけるスポーツコミッションの認知度や必要性、設置状況などについて触れながら、青梅市におけるケーススタディを交え、スポーツコミッション設立に向けた提言を行いました。



▲調査研究結果発表の様子

3. 事例紹介

続いて、スポーツコミッションを具体的にイメージしてもらうことを目的に、3名の方から実際に取り組んでいる組織の活動概要をご紹介いただきました。

(1) (一社) 志摩スポーツコミッション

まず、(一社)志摩スポーツコミッション事務局長の石本直樹氏による講演が行われました。講演で

は行政との連携について、設立時や現在の状況に触れています。また、組織として様々なイベントを行っている中で、まちの雰囲気や文化を成功要因として挙げ、まちの人々と関わりを持つことの重要性を述べられました。そして、単にイベントを行うだけでなく、まちづくりの視点を持つことがポイントであること等を、組織の活動概要の紹介を通じてお伝えいただきました。

(2) NPO法人ふじさんスポーツコミッション協会

次のNPO法人ふじさんスポーツコミッション協会事務局長の酒井修一氏による講演では、主に広域連携について述べられました。広域連携の課題として、地域振興につながる仕組みの構築、関係者連携促進、低い認知度の向上などが挙げられました。そして、広域連携を行う理由として、多様なニーズに対応するために様々な資源を活用できることが述べられ、これらを踏まえ組織の活動概要をご紹介いただきました。

(3) NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット

最後に、NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット理事長の桑田健秀氏による講演が行われました。今後、地域でのスポーツ財産をつなぐ連携ネットワークが非常に重要になってくることに触れ、総合型地域スポーツクラブを活用して設立した全国スポーツクラブコミッションのような組織づくりの必要性が述べられました。そして、行政のみが行うと個別に予算を取って活動してしまう事業を、コントロール、コーディネートしていく機能が重要とし、これらを踏まえ、組織の活動概要をご紹介いただきました。



▲事例紹介の様子
(左から石本氏、酒井氏、桑田氏)

4. トークセッション

ここまでの講演を踏まえ、スポーツコミッションの設立について考えるべく、NPO法人出雲スポーツ振興21専務理事の白枝淳一氏、宇部市総合政策部

文化・スポーツ振興課長青山佳代氏からお話を伺いました。始めに各組織に各スポーツコミッションの活動概要をご紹介いただきました。白枝氏からは行政との関係性を踏まえたまちづくり推進組織としての組織概要、青山氏からは健康長寿のまちづくりなどを目的とした行政内組織としての組織概要をご説明いただきました。

その後、基調講演を行った木田氏がファシリテーターとなり、トークセッションを行いました。セッションは主に組織設立を中心とした内容で、設立時に行政と民間がそれぞれ求めたもの、行政の支援、人材、設立時から現在の組織の変化、将来像や今後の課題などについてそれぞれ述べられました。

そして、設立時は行政の支援が必要な点、そして将来的には財政面で組織が自立をしていく点などについて触れながら、縦割りの組織に対し、いかに横のつながりをつくるかをまとめられ、シンポジウムが閉じられました。



▲トークセッションの様子
(下写真左から白枝氏、青山氏)

5. シンポジウムを終えて

スポーツと体育の考え方の違いを知ることから始まり、最終的にスポーツを活用したまちづくりの可能性を感じることでできるシンポジウムとなつたのではないかと思います。具体的に実際の組織の事例や設立の経緯に触れたことで、設立に対するハードルも下がったのではないのでしょうか。このシンポジウムが、今後のまちづくりを考える際の一要素となれば幸いに思います。